

IHI インフラ建設 社長に森内氏



森内社長

IHIインフラ建設の社長に6月17日、森内昭

取締役が就任した。徳山貴信社長は、IHI建材工業の社長に就いた。森内昭(もりうち・あきら)氏、89年東海大学大学院修了、石川島播磨重工業(現IHI)入社。07年イスマック(現IHI)出身。55歳。

IHIインフラ建設)橋梁事業部技術第1部部長、13年IHIインフラシステム理事・調達部長、14年同橋梁技術部長、同年IHIインフラ建設取締役、17年IHIインフラシステム取締役を経て、19年からIHIインフラ建設取締役。三重県出身。55歳。

因の1つに、プラスト処理の評価に関する規格があった。その代表的なもの、ISO8501-1にプラスト処理度をS a1~3記載したものだ。ISO8501-1には「プラスト処理見本」があり、処理前の鋼材が錆度(rust grade) A~Dに準じて除錆(せい)度が示されている。各錆度に応じてプラスト処理された写真があり、処理の度合いに応じてSa1~Sa3という具合に表示されている。Sa3はホワイトメタルと表記されており、除錆度100%でなければならぬ。これははつきりしているのだが、他は比較的曖昧な感じで、「最

終判断は人に任せる」といった評価方法なのだ。しかし実際、これが現在も世界的に最も広く採用されている理由の一つに、電気も測定器もないような海でも砂漠でもしっかりと評価できる。ヤングルでも、また言語の違う世界でも、人の記憶で評価できるという利点があるからだ。30年近く前に初めてこの規格を知った時は、あまりにも曖昧な内容に驚き、「これはためだな、僕には向いてない」とあつさり放棄してしまい、その後10年以上、ショットピーニング技術へ傾倒してしまっただ。(続く) 略歴 1964年兵庫

あるが、今塗替えている箇所の塗替えからの経過年は不明らしい。悪くなたたところを塗替えているからだ。状態が良いところは塗替えないということである。 ③大柄な人でもかまわずに歩ける足場は高所まで手が届かないが、作業に必要な場所に適宜ステーション足場を移動する形が使われていた。非常に合理的だと感じた。

厚地一郎のプラスト提言

②プラスト処理規格(上)



厚地氏

私はかれこれ30年もプラスト装置に関わる仕事をしてきた。とりわけプラスト処理に関する研究

にある。こちらは大学などでも研究され、論文も多数あるのに、プラスト処理はなぜ少ないのか? 研究テーマになりにくいのか? 新型コロナウイルスで自粛する中で自律型プラストロボットとAIを勉強していた時、その答となるようなことが分かってきた。 まず、疑問が生じた原因がある。こちらは大学などでも研究され、論文も多数あるのに、プラスト処理はなぜ少ないのか? 研究テーマになりにくいのか? 新型コロナウイルスで自粛する中で自律型プラストロボットとAIを勉強していた時、その答となるようなことが分かってきた。

「小寺氏」旅は様々な換がで、相当濃厚なことを学ばせてくれた。2人の同行者も、設計管理、施工と、色々な意見を持っている人達なので、現場でも車内でも意見交換が、相当濃厚なことを学ばせてくれた。2人の同行者も、設計管理、施工と、色々な意見を持っている人達なので、現場でも車内でも意見交換が、相当濃厚なことを学ばせてくれた。

興味がある方は、ぜひ一緒に学びましょう。発注者やコンサル、元請、施工といった立場は関係なく。 施工者だけでなく、発注者や地域の人も含め、皆がハッピーになれる。そんな現場にすることができたならステキな気がかりなことがある。人手不足、未熟練工の増加だ。「技術力を持った職人が丁寧に仕事をしなければ、有効な補修工事はできない」と訴える。 まずは自らの理想を実現し、働きやすい会社へ。そして、働きやすい業界へ。夢はつながる。跡取り不在などで窮地に立つ現場の建設会社とのM&Aにも意欲を燃やす。

「中島氏」小寺氏、片山氏とアメリカの橋梁塗装の現地視察をした。合理的だと感じた点を幾つか挙げたい。 ①SSPC(米国鋼構造物塗装協会)の年次会議は、毎年2月に開催されている。冬期は鋼構造物の塗装に適さないため、この時期を選んでいくと思われ。 冬期に塗装工事が最盛期を迎える日本とは大違

訂正 6月15日付7面「サビバリヤー」をHPで紹介の記事で、「不安定な赤錆を安定させてマグネシウムに転換」とあるのは、「マグネシウムに転換」の誤りでした。おわびして訂正します。

橋に魅せられて



Epastrakushon 社長 竹内 祥一 さん

25歳の時の夢が、叶いつつある。「職人の処遇や働く環境を向上させ、誇りを持って働ける会社を作りたい」。兵庫県立農業高校を卒業して補修工事会社に入り、阪神淡路大震災後、高速道路の耐震補強工事に従事した。「仕事は面白い」。そう思っただけでも引き受ける

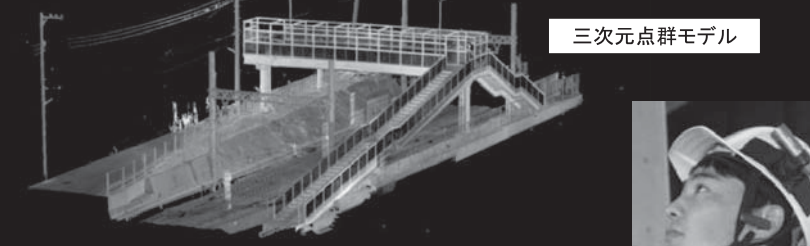
25歳の夢 叶える舞台はできた

会社が敬遠する仕事を取りに行く。きちんと施工する。そして、「対価もしっかりといただく」と。 他社の工事でも永年見てきて思う。「橋は正直だ。丁寧に補修すればいつまでも美しく長持ちするが、ミスや手抜きがあると再劣化してしまう」と。材料、施工方法、構造物もかわかり、補修工事は奥が深いともしみじみ話す。 気がかりなことがある。人手不足、未熟練工の増加だ。「技術力を持った職人が丁寧に仕事をしなければ、有効な補修工事はできない」と訴える。 まずは自らの理想を実現し、働きやすい会社へ。そして、働きやすい業界へ。夢はつながる。跡取り不在などで窮地に立つ現場の建設会社とのM&Aにも意欲を燃やす。

「片山氏」欧米はドライだ。そう考えていたのは、間違いだった。技術者への愛。それは日本の

「中島氏」小寺氏、片山氏とアメリカの橋梁塗装の現地視察をした。合理的だと感じた点を幾つか挙げたい。 ①SSPC(米国鋼構造物塗装協会)の年次会議は、毎年2月に開催されている。冬期は鋼構造物の塗装に適さないため、この時期を選んでいくと思われ。 冬期に塗装工事が最盛期を迎える日本とは大違

私たちは現場から維持管理CIMを推進します



- 構造物調査業者への3次元データ活用化
- 構造物調査における3次元データ所得技術指導
- 3次元データ有効性の推進及び発展性の研究

任意団体 M-CIM研究会

代表 中馬 勝己 事務局:(株)補修技術設計:03-3877-4642 (株)補修技術設計(東京都:03-3877-4642) / (株)MAEDA-OFFICE(愛知県:052-482-8368) ジビル調査設計(福井県:0776-23-7155) / 山陽ロード工業(岡山県:0868-22-6218) (株)コスモエンジニアリング(東京都:03-3869-7990) / 新興開発(北海道:011-842-1383) 旭建設(宮崎県:0982-52-1234) / (株)小宮山(長野県:0267-56-1299) (株)SANEi(大分県:097-522-2355) / (株)東和設計(千葉県:047-432-3618) (株)フジテック(長野県:026-285-2553) / (株)カボテック(徳島県:0884-24-8415)